

保育園における保育内容等の自己評価結果まとめ「令和7年度」

ねらい・・・一人一人の保育士等が自らの保育を振り返り取り組んでいることを再確認し更により良い保育に向けて課題を明確にしていく

1、園の保育理念・保育方針・保育目標の理解について

保育士、栄養士、調理員、子育て支援員等と職種はそれぞれ違うが常に同じ方向性を向いて共通理解をはかるよう努めている。よって「おおむね達成出来ている」という評価が高かった。

2、保育について

全体的に「おおむね達成出来ている」「ほぼ出来ている」との回答だった。だが「それぞれの役割を把握し適切な動きができていないか」と問われると謙遜したのか「おおむね達成出来ている」より「ほぼ出来ている」と自己の能力や成果を控えめに評価した回答が多かった。

3、健康管理について

「おおむね達成出来ている」との回答だった。一人一人の子どもに合わせた保育を心がけ家庭と連携がなされている。また、子どもばかりではなく保育する側も健康でなければならないと再認識しそれぞれが健康管理に努めた。

4、行事について

行事の回数は適切でねらいがしっかりしていると「おおむね達成出来ている」「ほぼ出来ている」との回答だった。

5、食育について

「旬のものと季節感のある食材を用意し食文化を伝える工夫をしているか」の問いかけに子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つようにと園の畑で旬の野菜を植え、育て、収穫したものをその日の給食で提供し食すなど常に工夫し「おおむね達成出来ている」「ほぼ出来ている」との回答だった。

6、運営について

園長や主任、職員の役割分担と責任が明確にされ園児や保護者への迅速な対応ができる体制が整っている。また各種会議を適切かつ効率的に進めていると「おおむね達成出来ている」との回答だった。

7、保健・安全指導について

重大な事故にならないように「ヒヤリハット」の報告は、その都度、職員間で共有し予防策を講じ、避難訓練・交通安全指導は計画に基づいて子どもたちに分かりやすく適切に実施している。全職員が「おおむね達成出来ている」との回答だった。

8、研修・研究について

全職員が園内、園外研修へ積極的に参加し保育の質の向上を図っている。「研修報告を園内で実施し全職員で共有できるようにしているか」の項目では、全職員が「おおむね達成出来ている」との回答だった。だが「実践研究に取り組み日常の保育に活かし子どもの育ちに反映されているか」と問われると半数の職員が「おおむね達成出来ている」とは応えられなかった。今後は、研修の成果を活かし日々の保育に小さなことからでも反映できるよう園に添った工夫をしてもらうと共に外部研修への参加機会が確保されるよう努めていきたい。

9、守秘義務について

個人情報保護法に基づいて保育業務で知り得た情報の秘密の保持は、全職員が「おおむね達成出来ている」との回答だった。

10、設備について

施設の老朽化は防げないが保育の設備は整っている方だと思う。全職員が安全点検に努め「おおむね達成出来ている」との回答だった。

11、子育て支援について

保護者に伝えたつもりでも伝わりにくい保護者支援の難しさがあり「保育内容及び質問に対して分かりやすく説明できるか」と問われるとなかなか難しいとの回答だった。

12、開かれた保育園づくりについて

乳児保育園のため地域社会、その他の施設等との交流をもつのは難しい部分もあるが保護者を年に数回呼んで保育参加をしたり、中高生の職場体験を受け入れたりしている。「おおむね達成出来ている」「ほぼ出来ている」との回答だった。

13、情報発信について

全職員が「おおむね達成出来ている」との回答だった。これからも試行錯誤しながら園活動に誰もが興味関心をもてるような情報発信に努めていきたい。

人権擁護のためのセルフチェックリスト

～「子どもを尊重する保育」のために～

※日々の自らの保育を振り返り「気づいた点」や「良くないと考えられるかかわり方」「改善すべき点」など感じたことを記入し今後どのように保育に取り組むことが必要なのか考え保育の専門職としてさらなる保育の質の向上をめざしてもらうことを目的とする。

(1)「子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり」について

- ・個々の性格や成長はそれぞれ違うので皆平等にその子に合った関わりとなるよう努めている。
- ・一人ひとりを大切にという思いで子どもの気持ちや考えを受け止め寄り添うようにしている。
- ・幼児期は食べ物の好き嫌いが見られる時期なので無理強いせず少しでも口にした時にはその姿を認めるようにしている。
- ・アレルギーや食事の量、形態など一人ひとりに合わせて出来る範囲内で食事提供している。また、子どもの意見を尊重し量を加減している。

(2)「物事を強要するような関わり・脅迫的な言葉かけ」について

- ・トイレに誘うときは本人の意思を尊重し、さりげなく仕草等見ながら声をかけるようにしている。
- ・忙しい時間帯や焦っている時に関わりを求められると子どもの言葉や気持ちに丁寧に耳を傾ける余裕がなく「ちょっと待っていてね」と言葉をさえぎったり口調が強くなる時があった。
- ・遊びから次の活動に移るとき抱きあげて遊びを終わらせてしまうことがある。
- ・以前は「○○しないとできないよ」と言って交換条件を出してしまうこともあったが活動に期待が持てるように「○○すると○○できるよ」と言葉かけを換えるようにした。
- ・月齢的にどこまでがわがままなのか、そうでないのかの線引きが難しい。特に一歳児は気分が変わりやすく言葉掛けや関わり方に戸惑うこともあるが周りにいる保育士に相談しながら意欲的になれるような関わりを意識している。
- ・苦手な野菜等は、少しずつでも食べられるように声はかけるが強要しない。

(3)「罰を与える・乱暴的なかかわり」について

- ・手洗い時、順番に並んでいる子どもの自発的行動を待てず腕を掴んで引っ張ってしまうことがあった。
- ・乱暴な関わりはしていない。そのようなことはあってはならないと思う。
- ・罰を与えようと思っただけではなくても言葉の使い方や口調などその時の状況で受け取り方が違うので言葉の掛け方には十分気をつけている。

(4)「一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり」について

- ・丁寧に保護者支援に関わり信頼関係が築けるよう心がけている。
- ・お迎えの遅い子に対して「何時かな」など時間を気にしてしまう。
- ・保護者を否定するような話し方はしないようにしている。
- ・給食検討委員会では旬の野菜を取り入れた食事メニュー、栄養バランス、調理形態等を検討し食事提供している。おかわりも出来る範囲で準備し十分に満足してもらえるようにしている。
- ・子どもの行動の背景にいろいろな環境があることを想像し、どのように関わっていくべきか職員間で情報交換している。
- ・子育て支援を通してそれぞれの家庭環境があることを痛感した。その保護者に寄り添えるようまた、子どもに寄り添えるよう言葉を選びながら相手の気持ちを汲み取るよう努めた。

(5)「差別的なかかわり」について

- ・子どもの命、人権を守ることを第一に考えている。
- ・泣く子への関わりの方が多くなってしまう。
- ・子どもが泣いているときに理由も聞かず「また泣いているの」と「また」と自分の思い込みや感情の入った言葉を使ってしまう時があるので気をつけたい。
- ・男女差別なく接しているか振り返り気をつけるようにしている。
- ・子どもの家庭環境など職員間で情報共有する場合は、当該園児の前では話さないように気をつけている。

～自己評価からの保育の質の向上に向けた取り組み～

「保育の良し悪しとはどのようなことか」これは、容易には判断がつかない。保育の現場では、多様な子どもたちと保育者と環境が複雑に絡み合って、その時々での出来事が起こり何をどのように見るかという見方によっても大きく変わる。保育士等は、子どもの命を守り、育ちを支える責任を担っている。園長として職員に求めすぎではないか。保育士等がただ言われたことを受身でこなしていないか。そうすると自然と子どもの主体的な活動を支えることが見えてこな

いのではないか。まずは、園内で自己評価をするにあたり私(園長)が保育士等の
思いや考えを肯定的に受け止めることが重要で一人ひとりの保育士等が主体的
に保育に向かうことが出来るよう自分の思いや考えを出せる職場環境でなけれ
ばならない。園長が「保育士等にとってどうなのか」と気持ちを寄せることで保
育士等は「子どもにとってどうなのか」と連動するはずだ。これからも話し合い
の目的や互いを認め合う基本姿勢を明確に示し園長の役割について精進してい
きたい。

「保育園における保育内容等のアンケート」 ～保護者評価～

保育の質の向上に向けた取り組みとして自分たちだけでは見えにくい・気づきにくいところを保護者に見つけてもらい『保育のあり方を見つめ直そう』とアンケートを実施した。その結果、保育園側から発信している情報は私たちが「伝えたつもり、伝わっているつもり」と勝手なひとりよがりです保護者には上手く伝わっていないこともあると分かった。主に『地域に開かれた保育園づくり』の項目では保護者の認識が薄いように感じた。そこで保護者が集まる親子で運動会の保育参加の機会にアンケートの結果を基に保育士等の思いや願いを伝え保育園等の役割や意義を伝えた。まず地域の親子を対象に園庭開放や食育サポート等の子育て支援を毎週火、金曜日に開催し好評価を得ていること。また、外部からは英語の講師や交通指導員を呼んで20分程の教室を開くと子どもたちの集中力の凄さに「未満児とは思えない」と賞賛されること。絵本の読み聞かせでは、図書館から毎月巡回の貸し出し本を借り子どもたちがとても楽しみにみていること。中高生の職場体験の受入れは、学校側から依頼があれば保育に関心を抱いている生徒の受け入れに協力したいのでそのことを保護者にも理解して欲しいこと。等限られた時間内ではあったが今現在取り組んでいること、これから取り組もうとしていることを共有できるようお茶タイムの時に伝え方を工夫し情報発信の場を設けた。これからも子どもの気持ちに寄り添い地域で生きる多様な家庭や子どもたちを皆で支える関係性を築いていきたい。